

AFC円卓会議：イスラム文化と日本②

「現代中東における日本文学翻訳—受容と変容—」

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：東北学院大学

2026年8月27日（木）11:00～12:30

於・東北学院大学五橋キャンパス

言語：日本語・参加無料

趣 旨

近年、中東、特に若者の間で日本のポップカルチャーへの関心が高まっており、日本語学習率が増え、日本文学の翻訳数も大幅に増加している。アニメ、マンガ、文学作品が醸し出す日本イメージには地理的な距離が重要な役割を果たし、作品が生み出す日本イメージの形成過程において翻訳方法と翻訳者が大きな役割を果たしている。本発表では、今日の中東における日本文学の翻訳を通して、文学翻訳が生み出す日本イメージと日本イメージについて明らかにする。

特に、トルコ、イラン、シリアで出版された日本語文学の翻訳の現状をとらえ、問題点を明らかにする。また日本文学の中東の諸言語への翻訳における言語的な課題、そして作品の単語と文脈に基づく文化的受容・変容と適応について議論を行う。

プログラム

司会：シェッダーディ・アキル（慶応大学）

11：00 報告①「源氏物語をトルコ語に翻訳する際の課題」

バイカラ・オウズ（イエディテペ大学）

『源氏物語』のトルコ語翻訳では、平安時代の宮廷文化や美意識、古典語の語法をいかに移すかが大きな課題となる。和歌や慣習、曖昧な代名詞、慣用表現は現代トルコ語に直訳しにくく、脚注や補足説明が必要になる一方、読書の流れを妨げる恐れもある。翻訳者には、原文への忠実さを保ちつつ、トルコの読者に同等の感情やイメージを伝える工夫が求められる。本稿では、翻訳経験を踏まえ、問題点とその解決例を整理する。）

報告②「日本文学のトルコ語訳：日本文化の受容と変容」

チェリッキ・メレキ（チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学）

文学作品の翻訳は、二つの文化間の動きと変容として定義することもできる。日本語からトルコ語への文学作品の翻訳においては、特に食べ物、衣服、日用品の名前の翻訳方法に関して、注目すべきメカニズムが存在する。さらに、人称代名詞は、日本語とトルコ語の文脈を超越し、個人の自己認識やアイデンティティとの関連性を考慮した文化的文脈の中で検討する必要がある。本研究では、ハビエル・フランコ・アイシェラの翻訳における文化的に固有の要素に関する方法論を用いて、特に一人称の訳し方を中心に太宰治の『人間失格』と夏目漱石の『こころ坊ちゃん』のトルコ語訳を考察する。

報告③「現代イランにおける日本文学翻訳を通じた日本認識」

アヤット・ホセイニ（テヘラン大学）

本発表は、現代イランにおける日本文学翻訳の展開を通して、日本認識の形成過程とその特質を明らかにすることを目的とする。日露戦争を契機とする対日関心の萌芽から、1930年代の詩を中心とした初期紹介、戦後の俳句受容とその創作的展開、さらに1960年代以降の小説翻訳の進展に至る歴史的推移を跡づける。とりわけ、翻訳が欧米語文献を媒介として行われてきた点に注目し、選書傾向や作家受容に与えた影響を分析する。また、近年の翻訳状況を踏まえ、重訳依存や著作権問題、翻訳人材の不足といった構造的課題を指摘し、日本文学受容の今後の展望を考察する。

報告④「小野正嗣の『獅子渡り鼻』のアラビア語訳における言語的課題と文化的要素」

ナーヘッド・アルメリ（ダマスカス大学）

本発表では、小野正嗣の『獅子渡り鼻』（2013年）のアラビア語訳における言語的課題と文化的要素についての分析を行う。『獅子渡り鼻』は十歳の少年「尊（たける）」を主人公にし、母の嫌いな故郷で暮らすことになった彼のある夏の生活を描く物語だ。この作品のタイトルから始め、直訳が困難な単語や表現が少なくない。特に文化的な背景を持つ単語が注目に値します。本発表ではそれらの単語や表現に焦点を当て、アラビア語訳における言語的課題と文化要素を提示する。①地蔵さま ②朝からスイカを食べる ③昭和とは何？（発表要旨）

総合討論と質疑応答

討論者：徳永 佳晃（日本大学）、岩田和馬（東京外国語大学）、登壇者全員

12：30 閉会

登壇者紹介

司会進行：Aqil CHEDDADI | シェッターディ・アキル

慶應義塾大学総合政策学部訪問講師。モロッコ国立建築学校を卒業後に来日し、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の環境デザイン・ガバナンス博士課程を修了。博士(政策・メディア)。2022年度渥美奨学生。

報告者①：Baykara Oğuz | オウズ・バイカラ

イエディテペ大学文学部翻訳学科教授。2026年、日本政府より旭日章を授与。源氏物語をトルコ語に初めて翻訳。杏林大学で博士号を取得。彼の著書『二人の日本人作家の肖像：谷崎潤一郎と芥川龍之介』は2020年に東京で出版。日本語からトルコ語に翻訳された作品には、『源氏物語』（2025年）、『河童』（2010年）、『羅生門ほか』（2010年）、『日本文化』（2010年）、『左前で春琴』（2011年）、『日本文学史』（2012年）、『日本人とその行動』（2013年）、『日トルコ語基本辞典』（2002年、2014年）などがある。

報告者②：Melek ÇELİK | チェリッキ・メレキ

2009年度渥美奨学生。チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語教育学部助教授。2011年11月筑波大学人文社会研究科文芸言語専攻の博士号（文学）取得。白百合女子大学、獨協大学、文京学院大学、早稲田大学非常勤講師、トルコ大使館文化部／ユヌス・エムレ・インスティトゥート講師、トルコ国立ネヴシェル・ハジュー・ベクタシュ・ヴェリ大学東洋言語東洋文学部助教授を経て2018年より現職。

報告者③：Ayat HOSSEINI | ホセイニ・アヤット

名古屋大学、テヘラン大学、東京大学で学士から博士課程を修了。現在、テヘラン大学日本語・日本文学専攻の教員及び東アジア言語文学科の学科長を務める。専門は日本語学・日本文学で、2024年末までに著書10冊、学術論文40編を発表し、23件の修士論文を指導。研究・教育活動の一環として、日本語・日本文化に関する学術的取り組みに従事。2022年、日本外務大臣表彰を受賞。

報告者④：Nahed ALMEREI | ナーヘド・アルメリ

渥美国際交流財団2019年度奨学生。シリア出身。ダマスカス大学日本語学科卒業。2011年9月日本に留学。2013年4月筑波大学人文社会科学研究科に入学。2020年3月博士号取得。博士論文「大正期の童謡研究——金子みすゞの位置づけ」は優秀博士論文賞を受賞。2020年11月『金子みすゞの童謡を読む——西條八十と北原白秋の受容と展開』港の人から出版。2021年、第45回日本児童文学学会奨励賞受賞。現在、ダマスカス大学文学部日本語学科教員。

討論者①：Kazuma IWATA | 岩田和馬

東京外国語大学外国語学部西南アジア課程トルコ語学科卒業。同大学大学院総合国際学研究科にて修士号取得・博士後期課程在学。2020-2023年にトルコ、ボアジチ大学客員研究員としてイスタンブールへ留学。2024年度渥美奨学生。専門は18世紀イスタンブールの都市社会史。

討論者②：Yoshiaki TOKUNAGA | 徳永佳晃

東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。日本学術振興会特別研究員PD（日本大学）、2023年度渥美奨学生。専門はイラン地域研究・近代政治史で、主な論文に「「不法な影響力の排除」を目指して：パフラヴィー朝成立期のイランにおける1304年選挙法改正(1925)」『歴史学研究』（1044）などがある。

お問合せ先：AFC事務局 afc2026@aisf.or.jp